

意味のある「ゆらぎ」

進化の未来は、予測できません。
システムの中のわずかな「ゆらぎ」が、
進化の未来を決定してしまうからです。

この言葉は、ノーベル賞科学者のイリヤ・プリゴジン博士が、
『生命論パラダイムの時代』という本の中で語ったものです。

そして、同じ時期に、アルビン・トフラーが、
『戦争と平和』という著書の中で、次の言葉を語っています。

些細な原因が、巨大な結果を引き起こすこともあるのだ。
遠い国で起きた些細な戦争が、
予測しがたい出来事に何度もぶつかっていくうちに、
雪だるま式に大きくなり、
しまいには大戦争に発展することだって考えられるのである。
世界システムは「プリゴジンの性格」を帯びつつある。

このトフラーの「予言」は、
テロが頻発する昨今の世界情勢を見ていると、
深刻な響きを持って伝わってきます。

では、このような
小さな「ゆらぎ」が、大きな「変動」を生み出す時代に、
我々は、その「ゆらぎ」に、
どのように処していけばよいのでしょうか。

そのことを考えるとき、
かつてプリゴジン博士から伺った言葉が思い起こされます。

「意味のあるゆらぎ」を見いだすためには、
「直観力」が求められるのです。

世界最高の科学者の語った、最も大切な言葉。

それは、「直観力」でした。

そのことを、印象深く覚えています。